

Ⅲ ヒアリング調査からみた経営概況（企業の声）

【現在の景況感】

- 「天候不順により景況感は悪化している」（食料品製造）
- 「人口減の中、業界が縮小するのは仕方がない。情報伝達の多様化に対応する時期と捉えている」（印刷業）
- 「業界としては需要も多く、技術力のある企業は受注が重なり生産が追い付かない状況である」（プラスチック製品）
- 「受注は維持できており景況感は良い」（金属製品）
- 「電子部品業界は好況であるが、当社はターゲットが悪いためかあまり良くない」（電気機械器具）
- 「昨年に比べれば良くなっているが、まだ一昨年のレベルに届いていない」（輸送用機械器具）
- 「受注状況は堅調で好況である」（一般機械器具）
- 「戸建住宅の販売は良好であり好況である」（建設業）
- 「生活にかかるものにお金をかけなくなっており、単価を下げる、点数を抑えるなどシビアに対応」（百貨店）
- 「給料が増えていないのでは。大企業は良いが中小は相変わらず厳しい」（商店街）
- 「価格が高くて商品を買う人と、安くないと買わない人に二極化している」（スーパー）
- 「売上げに変動はなく、業界に仕事がなくなる感じもしない」（情報サービス業）

【売上・採算】

- 「受注増加で工場の稼働率が向上し、採算性が良くなった」（一般機械器具）
- 「受注が順調で採算性が良くなった」（輸送用機械器具）
- 「顧客がよりシビアになっている。広告発注の回数を減らしたり、効果が無い場合は契約を打ち切ったりする」（印刷業）
- 「今年は暑くなり始めた時期が早く、また、雨も多かったので、さらに客足が遠のいた」（スーパー）
- 「お金を使うところが変わってきており、買い物には使わない傾向。飲食店はいいのではないか」（商店街）
- 「価格帯よりも、価値があると判断されたものが売れている。安くても買わない、吟味して必要なものしか買わない、といった傾向が強まっている」（百貨店）
- 「今まで準備していた仕事が立ち上がり、売上げに貢献し始めた。また、派遣業務の売上げも伸びた」（情報サービス業）

【今後の見通し】

- 「野菜等を中心に天候不順の影響が出てくることから、今後は悪い方向に向かう」（食料品製造）
- 「大手からの下請けでは、大ロットの仕事については計画的な受注ができていく」（印刷業）
- 「中国向けの半導体関連が好調で、かなり先まで受注が見込まれる」（プラスチック製品）
- 「しばらく現状が続くとみており、景況感は良い」（金属製品）
- 「景観材料やオリンピック関連の仕事が出てくることを期待する」（鋳鉄物）
- 「年末は大手企業が生産調整に入るため、悪くなる流れは例年と変わらない」（電気機械器具）
- 「今後も順調に推移するのではないかと」（輸送用機械器具）
- 「半導体関連は波があるが、しばらくは現状が続くのではないかとみている」（一般機械器具）
- 「引き続き受注状況は好調であり、今後も良い方向に向かう」（建設業）
- 「高級品は回復してきたが、消費傾向が分かってきている」（百貨店）
- 「不透明である。景気を刺激する要素がない」（スーパー）
- 「商店街が良くなる兆しは見えない」（商店街）
- 「大企業は上向くだろうが、中小企業にはその恩恵はない」（情報サービス業）